

①「ハウプランニング」②「家庭科教育法Ⅰ」③「生活学概論」

羽衣国際大学人間生活学部人間生活学科生活マネジメントコース

宮崎 陽子

1. シラバス

授業科目名	ハウプランニング	単位数	2	授業科目名	家庭科教育法Ⅰ	単位数	2
開講年次	1年	学期	前期	開講年次	2年	学期	前期
担当教員	宮崎陽子			担当教員	宮崎陽子		
科目分類	専門基礎科目（教科に関する科目）			科目分類	資格必修科目（教職に関する科目）		
選択／必修	必修(コース)	授業形態	講義	選択／必修	必修(教職)	授業形態	講義
授業の目的・到達目標				授業の目的・到達目標			
<p>家政学の住居学の基本的内容を理解し、豊かな住まい・住環境を実現させるための住まい方、および設計条件や社会条件等について、総合的に考慮した提案ができる。また、客観的な知見と主体的な考察をもとにして、これからの住生活のあり方について述べるができる。</p>				<p>家庭科教育の理念や意義を認識するとともに、家庭科教員に必要となる基礎的な知識・技術を習得する。具体的には、①中学校家庭科の学習指導要領の内容を理解する。②家庭科の授業づくりの仕組みや各要素を総合的に理解する。③家庭科教育の意義について考察し自分の意見で述べるができる。</p>			
授業の内容				授業の内容			
<p>1. オリエンテーション【授業の概要や進め方の説明／住居学とは】</p> <p>2. 住まいの機能</p> <p>3. 住まいの歴史(1)</p> <p>*以下、住居学の各論が続くため省略</p>				<p>1. オリエンテーション【授業の概要や進め方の説明／家庭科のイメージ】</p> <p>2. 家庭科教育の意義【家政学と家庭科教育／家庭科教育の現代的意義】</p> <p>*以下、家庭科教育の各論が続くため省略</p>			
評価方法	小レポート（15%）、試験（70%）、その他出席状況等（15%）により判定。			評価方法	レポート（15%）、試験（70%）、その他出席状況等（15%）により判定。		
・基準				・基準			
授業科目名	生活学概論	単位数	2	担当教員	岸本幸臣	選択／必修	必修(学部)
開講年次	1年	学期	前(後)期	科目分類	専門基礎科目	授業形態	講義
授業の目的・到達目標	人間生活に特有な、生活の質の上昇志向と世代を継承できる安定的な生活持続への潜在的欲求の想いが、今日の持続可能な社会発展の基本原則となっていることを理解する。また、生活学における個別領域科学の使命と隣接科学のそれとの違いを認識できるようにする。						
授業の内容	<p>1. 講義の概要 【生活学を学ぶ目的と生活現象のとらえ方】</p> <p>2. 生活学の歴史（世界）【古代ギリシャ家政論から現代アメリカ家政学へ】</p> <p>3. 生活学の歴史（日本）【江戸期の家道訓から家政学そして生活科学へ】</p> <p>4. 生活と社会の進歩 【社会発展に果たす人間生活の上昇志向の特性】</p> <p>5. 社会発展とその功罪 【文明の必然性と発展に内在する基本的矛盾】</p> <p>6. 問われる価値観転換 【人間生活の新パラダイムとしての家族とその機能】</p> <p>7. 生活学の学問構成 【生活事象を考察するための領域科学の考え方】</p> <p>8. 生活主体の特性 【家庭生活の当事者としての家族とその機能】</p> <p>9. 生命維持の手段 【人間の健康と生命維持のための食環境の条件】</p> <p>10. 生活の一義的保護 【生物的弱者としての人間の衣環境の条件】</p> <p>11. 生活の空間的条件 【家庭生活の場としての住環境（住まいと居住地）】</p> <p>12. 生活の支援システム 【社会化する生活と支援方法（生活福祉と情報）】</p> <p>13. 生活の管理と経営 【主体と媒体の対応法（生活目標と生活スタイル）】</p> <p>14. 生活学と専門職 【生活学の社会貢献の必要性和その活動分野】</p> <p>15. 講義内容のまとめ 【生活学の総括整理と定着度確認】</p>						
右欄							
評価方法・基準							
レポート（20%）、試験（70%）、その他出席状況等（10%）により判定。							
教科書・参考書	<p>〔テキスト〕「家政学のじかん」（関西家政学原論研究会編、2011.6）</p> <p>〔参考書・その他〕「私たちの生活科学」（中根芳一編著、理工学社、2003.4）</p>						

2. 授業の特徴や授業を行うにあたっての工夫

① 羽衣国際大学の人間生活学部は食物栄養学科と人間生活学科（生活福祉コース、生活マネジメントコース）の2学科構成となっています。教育内容から家政学系の学部といえますが、本学では家政学を「人間生活学」と称しています。本学における「家政学原論」関連科目の最大の特徴は、家政学原論の内容をベースにした「生活学概論」を学部共通の必修科目としていることです。食物栄養学科は1年・前期、人間生活学科は1年・後期に、専門基礎科目として学びます。1年時に家政学がどのような学問なのか、家庭生活とは何かを学んだ上で、各学科・コースの専門性を高めることを目指しているためです。

② 「ハウプランニング」は生活マネジメントコースの専門基礎科目（必修）（兼、教職の教科に関する科目）、「家庭科教育法Ⅰ」は中学・高校の家庭科の教員免許取得のための、教職に関する科目（必修）として開講しています。前者は「住居学」、後者は「家庭科教育(学)」の授業内容ですが、それぞれの1コマに家政学原論の要素を組み込んでいます。「ハウプランニング」では、生活に関わるどの専門分野を学ぶ学生にも、家政学の領域科学としての住居学の視点を有してもらうことを、「家庭科教育法Ⅰ」では家庭科の基礎科学としての家政学を理解してもらうことを目的に、位置づけています。また、それぞれの授業の各論部分でも家政学的視点の重要性を述べています。

③ 「生活学概論」（担当：岸本幸臣）の受講生は50～90人（学科により人数が異なる）で、毎回プリントを配布して講義をしています。生活と科学の関係（規範科学）や家政学の成立史、家政学の学問論、などの原論的内容と、衣・食・住・家族・経営などの概論を組み合わせた授業になっています。生活事象やその問題への関心を高めるため、教員は毎回テーマに関するミニレポート・アンケートを課し、全員の調査結果をグラフ化にするなどでまとめて紹介しています。また、テキスト「家政学のじかん」の講読し感想を書く課題もあります。

④ 「ハウプランニング」（担当：宮崎陽子）の受講生は30人前後で、毎回プリントを配布して講義をしています。初回授業で、家政学の目的や領域構成を紹介しながら、家政学の住居学の研究スタンスを工学の建築学と比較して説明しています。学生はその違いに興味を持っているようです。「家庭科教育法Ⅰ」（担当：宮崎陽子）の受講生は5～10人程度で、毎回プリント配布をし、講義・グループワーク等をし、意見交換を積極的にしています。2回目の授業で、家政学の学問的特性（対象・方法・目的）や領域構成、今日的課題に触れ、それと家庭科との関連を考察するよう促しています。家庭科教諭を目指す学生に人間らしい豊かな暮らしとは何か、を考える学問と教科の意義を考えてもらうきっかけにしています。